

卒業生 就業状況調査（報告）

令和8年5月1日現在

対象 卒業後3年経過者 令和4年度卒業生（2022年9月卒～2023年3月卒生）
 卒業後1年経過者 令和6年度卒業生（2024年9月卒～2025年3月卒生）
 実施期間 令和8年3月16日 発送～令和8年4月12日締切

	幼児教育	心理	子ども発達	総合福祉	管理栄養	大学院	計	回収計	回収率	未着	
卒後1年 発送数	64	159	29	66	69	7	394	/	/	35	
卒後3年 発送数	64	128	19	26	60	7	304				
学科別 発送数	128	287	48	92	129	14	698				
回答 手段	卒後1年 郵便	4	6	2	2	5	0	19	68	17.3%	16
	卒後1年 HP	12	18	4	4	9	2	49			
	卒後3年 郵便	4	6	1	3	2	0	16	42	13.8%	19
	卒後3年 HP	7	14	0	1	3	1	26			
学科 回答計	27	44	7	10	19	3		110	15.8%	35	
学科別 回収率	21.1%	15.3%	14.6%	10.9%	14.7%	21.4%		16.6%		5.0%	
卒後1年 回収率	25.0%	15.1%	20.7%	9.1%	20.3%	28.6%		回答／郵便到着者			
卒後3年 回収率	17.2%	15.6%	5.3%	15.4%	8.3%	14.3%					

■ 調査結果より

- アンケート回収率／令和7年度15.8%、令和6年度20.3%、令和5年度14.5%、令和4年度18.5%、令和3年度19.4%
 郵送したアンケートが届かなかった卒業生は35名（5.0%）昨年度24名(4.2%)、一昨年度11名 2.1%であり、
 送付の困難さが増している。送付できた卒業生からの回収率では16.6%（昨年度21.2%）となる。郵送回答者も減少。
 在学生へLINE登録を進めていることから、次年度は卒後1年者よりLINE活用へ手段の転換をはかる。
- 集計表2より、回答者の就業状況は本学の資格に関わる専門職が大学73.1%、短大95.8%を占めた。
- 集計表3より、回答者はほぼ正社員として就業されているが、教員等による契約社員が一定数あった。
- 集計表6より、離職経験は大学13.6%（昨年17.5%）短大14.8%（昨年31.6%）〔厚労省大卒3年以内離職率33.8%〕
 本学は昨年度より減少している。全国的にも減少傾向にあり、これに沿った結果であった。
- 集計表8における仕事と学びの関連性も大学64.9%、短大82.6%が直結と概ね直結である。本学の学びや資格を生かす
 仕事は、集計表6の定着状況にも優位性があると考えられる。
- 集計表7より、離職経験者の離職理由として、職場の将来性を見て、自分の将来を考えてたうえて「より魅力ある仕事」
 を選ぶ【価値観重視】の転職意識が見受けられる。卒後1年と3年に大きな違いがないことから、ライフスタイルおよび
 ライフステージへの意識と共に、周りの待遇向上への比較意識が強まった傾向にある。
- 集計表10より、学生就職課へ卒業生も相談できることへの認知向上は大学43.4%、45.8%であり、課題ではあるが
 卒後1年者の認知が大学42.3%、短大64.3%で昨年度のガイダンスを通じての認知活動により一定の成果を見た。
- 集計表11より、在学中のキャリア支援を振り返りは、回答者数が昨年度より若干少ない程度にも関わらず、
 回答が28.4%も減少した。選択肢から選択しなかった卒業生たちの就職活動の進め方に変化があったと思われる。
 相談相手として家族や友だちが減少、インターンシップや見学の増加、個別相談が役立った、との回答を得た。
 このことから、自己決定の傾向が強まった。
- 集計表12より、就職活動への必要なことは、やりたいことを考え、自己分析しつつ、ナビ活用の影響が増えている。
 また、集計表11と12に共通して、面接試験対策が重要視されており、社会人経験を始めた先輩らしい意見であった。

※ 本調査の結果や卒業生からのご意見を大切な声として受け止め、今後の学部学科における指導において、
 学生の価値観を理解し、卒業だけを追い求めるのではなく、入学目的の達成と各自の将来像を実現させるべく
 履修と課外活動に教職員が的確に指導・支援・アドバイスを提供することがディプロマポリシーの達成に
 つながることを再認識できた。卒業生の皆様に感謝申し上げます。

以上